



室積には「海の菩薩」として全国各地から広い信仰を集めてきた普賢寺と豊前国（大分県）宇佐神宮から勧請された早長八幡宮があり、古くから天然の良港として栄えていました。その後、室積は享保年間の2度にわたる大火で街並みの大半を焼失しましたが、宝暦13年（1763）毛利藩は室積港を北国や九州の廻船を迎える商業港として町並みの整備を行い、交易を行う長州藩撫育方会所を置きました。

文化2年（1805）、公用廻船のための会所の波止が、続いて普賢寺前の普賢波止と早長八幡宮前の八幡波止が天保2年（1831）に建設されました。普賢波止は諸国の廻船や客船の乗降に、八幡波止は小舟の係留や荷揚げに利用されました。

この八幡波止のあった室積港から約8.4km南東に牛島があります。奈良時代に銅の採掘が行われ、平安時代には京都加茂社の御厨で、海産物が京へ送られていたそうです。また、古文書に「垣島牛牧」と記されており、牛の放牧地だったことが「牛島」の由来だといわれています。

室積港から船で20分、牛島は漁業が中心で、明治から昭和初期にかけて急速に発展し、中国大陸沿岸部まで出漁していました。戦後の一時期には人口1,000人を数えたそうです。しかし、時代とともに人口の減少と高齢化が進み、今では後継者不足に悩む島です。

出迎えてくれた藤田・西崎の波止は、明治20年代に西崎新左衛門と藤田新治郎の親子を中心に一門が株主となって造られた波止です。建設には波止協同組合で石工を雇い、組合員の家族が総出で工事にあたり、昭和40年頃まで、波止の組合で運営されていました。

漁業の発展と共に、急速な発展を遂げた牛島漁港の往年の隆盛を今なお物語る選奨土木遺産です。また、平成21年、かつて活気があった頃の牛島の景色として国土交通省が認定した「島の宝100景」に「藤田・西崎の波止」が選ばれています。

■位置図



普賢波止より室積湾を望む



漁船の係留等に使用されている藤田の波止
(明治25～26年頃完成)



定期船の発着場に活用されている西崎の波止
(明治20年頃完成)



集落がV字型をした島の北側湾入部の僅かな平地に軒を連ねる牛島港